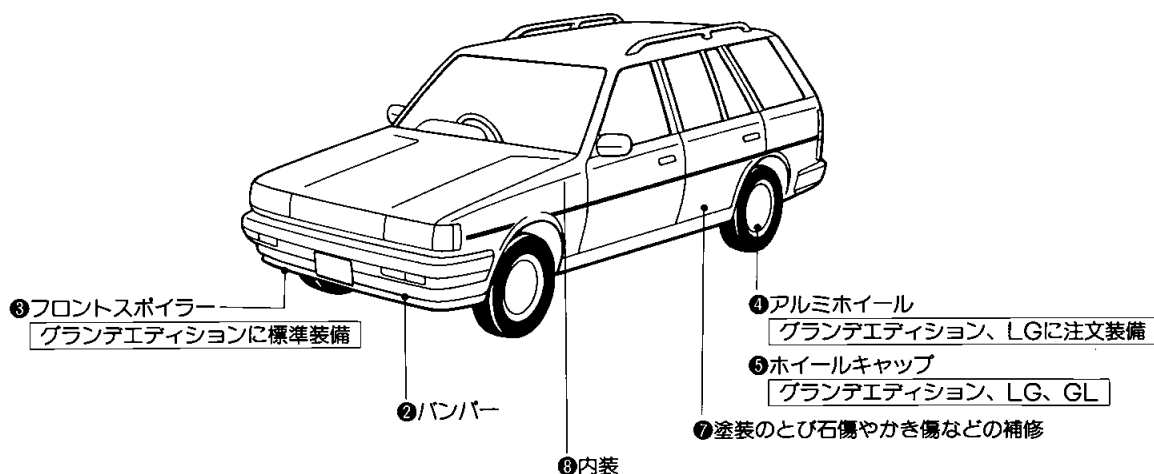


車の手入れ 110
 経済運転のコツ 114
 寒冷地での取り扱い 115
 タイヤチェーン 118

車の手入れ

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン



車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。塗装を損傷します。万一、付着した場合はただちにふき取る、洗車するなどしてください。
2. 次のような場合は必ず洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
 - ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

3. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

①車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。

▶洗車方法

1. 車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
2. 次に、車体の下回り、足回りを洗います。
3. よごれのひどいときは、クリーナーを使用します。
ム皮(鹿のなめし皮)で
3. よごれのひどいときは、クリーナーを使用します。

⚠注意

下回り、足回りを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。

👉アドバイス

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶自動洗車機を使用するときは

- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

▶高圧洗車機を使用するときは

ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水がはいるおそれがあります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が冷えているとき(およそ体温以下を目安としてください。)に行ってください。しみの原因になります。

②バンパーの手入れ

たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。

〈カラード(車体同色)バンパー付き車〉

車体と同じく洗車したあとワックスがけをします。

🎓知識

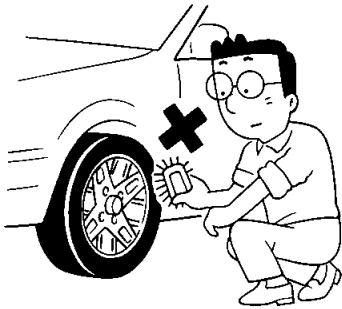
カラードバンパー以外では、バンパーに塗装用ワックスが付着すると目地にはいり、白くなることがあります。

③スポイラーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮やスポンジなどをご使用ください。

④アルミホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。
2. ワイヤブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。



👉 アドバイス

- 泥、海水、凍結防止剤などが付着したままだと、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
- 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

⑤ホイールキャップの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。

⑥ウインドウガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、ガラスクリーナーでの清掃をおすすめします。

なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

👉 アドバイス

リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは、ガラスクリーナーなどを使用しないでください。熱線が断線し作動しなくなるおそれがあります。清掃は、熱線にそって、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

⑦塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントまたはタッチアップテープで補修してください。

⑧内装の手入れ

警告

シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

注意

室内の清掃などで車内に水をかけないでください。オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

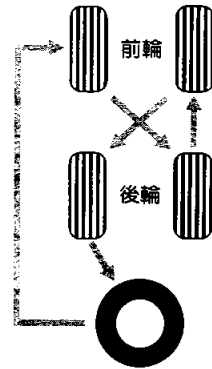
アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

1. カークリーナーなどでほこりを取り除きます。
2. 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふきとります。

■タイヤローテーション(タイヤ位置交換)

タイヤの偏磨耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。



知識

搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪づつ交換してください。ジャッキアップのしかたについては91ページを参照してください。

■エンジンオイルについて

エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行(80km/h以上での走行)を行う前には、必ず点検してください。(点検方法については「メンテナンスノート」を参照してください。)

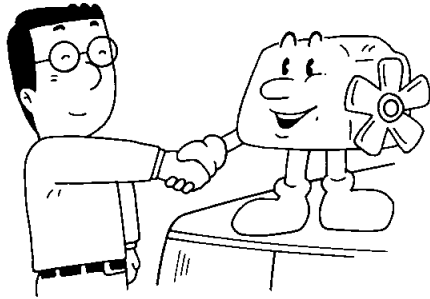
知識

エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

経済運転のコツ

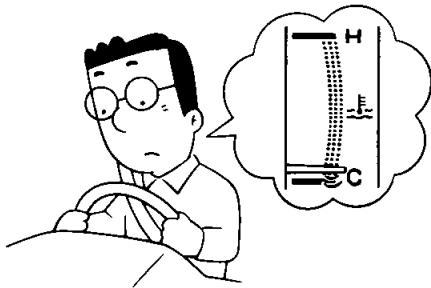
エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



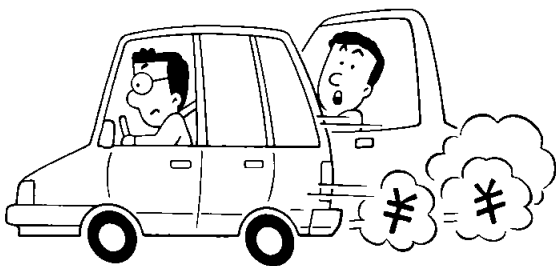
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出せばOKです。



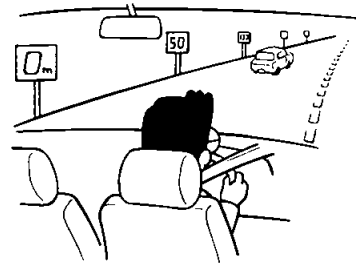
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



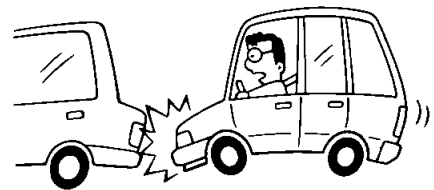
100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7
倍よけいに多くかかります。

高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、
安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない
不経済



クラッチの適正で確実な操作は、
車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることになります。
2. 走行中は、クラッチペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー（1速）ギヤを使用してください。
セカンド（2速）ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤチェーンの準備

2. 冬用タイヤの装着

冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換します。

3. 冷却水の濃度の点検をしてください。

(トヨタ純正ロングライフクーラントの濃度)

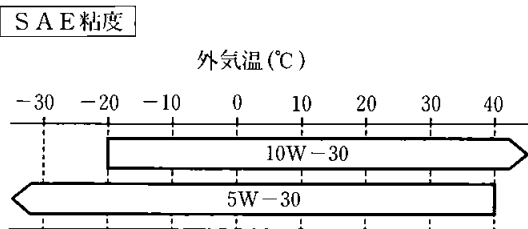
使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12℃
寒冷地	50%	-35℃

4. ウォッシャー液の濃度について

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャータンクのキャップをはずし、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

5. エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を

参考にして使いわけてください。



6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。

7. 寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。

知識

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない降雪期以外は、通常のワイパーブレードを使用してください。

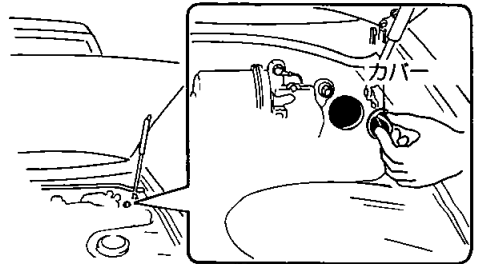
8. ワイパーの切り替え

フルコンシールド式ワイパーは、フロントガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフルコンシールド式からセミコンシールド式にしてご使用ください。

〈切り替え方法〉

切り替えには⊖ドライバーが必要です。

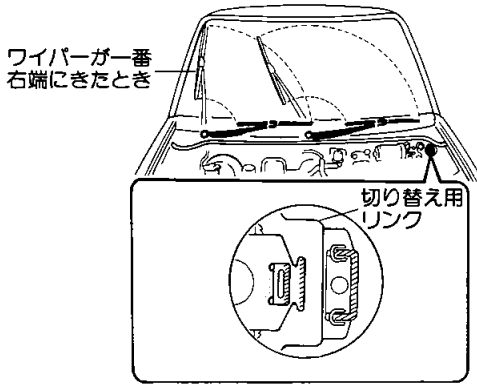
1. エンジンルーム左側のワイパーモーター横にあるカバーを取りはずします。



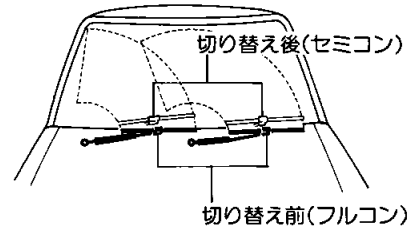
2. エンジンスイッチをONにし、ワイパースイッチをLOの位置にします。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

3. 運転席側のワイパーがウィンドウガラスの一番右端にきたとき、すばやくエンジンスイッチをACCの位置にし、1.で取りはずしたカバーの穴からワイパー切り替え用リンク(次図)が見えることを確認します。



6. ワイパースイッチをOFFにし、ワイパー停止位置が上がっていることを確認します。



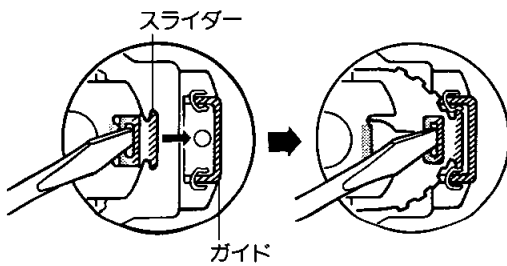
7. ワイパーモーター横のカバーを取りつけます。

知識

カバーの穴から切り替え用リンクが見えなければ2、3の操作を再度行ってください。

4. ⊖ドライバーを下図の位置に差し込み、スライダーを右に動かしてガイドにはめ込みます。

ガイドにはめ込んだときカチッと音がしてロックされたことを確認してください。



5. エンジンスイッチをONにし、ワイパーを4～5回作動させてください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

走行前の点検

寒冷時には、次の項目を走行前に点検してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を車体などに傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロントウィンドウの冰雪を除去する際には、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには



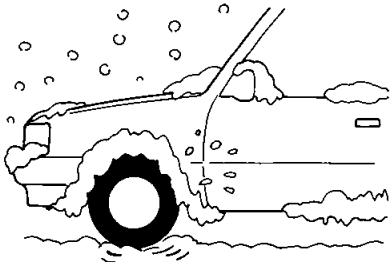
1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけることでエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。

雪道走行時、
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し
次第にたい積して、
ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



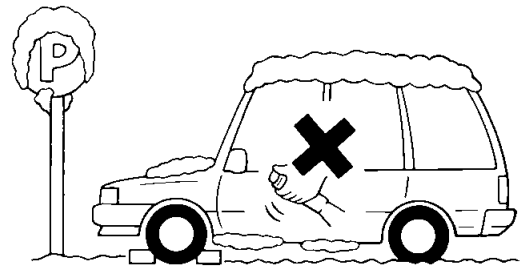
ペダル操作時のすべり防止のため、
靴に付着した雪を
乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング（駐車）ブレーキをかけておくこととブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング（駐車）ブレーキはかけないでください。

1. チェンジレバーの位置をマニュアルトランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチックトランスミッション車はPにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

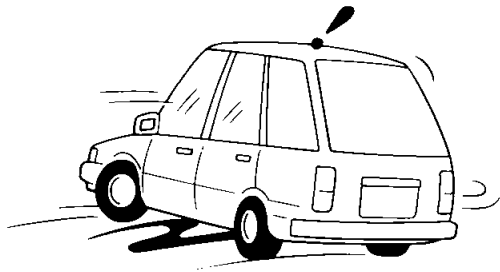
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、冰雪路面、凍結路面ではスリップに注意

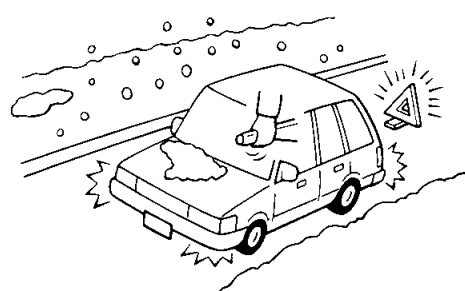


ひかえめな速度で走り、冰雪路面、凍結路面では、冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

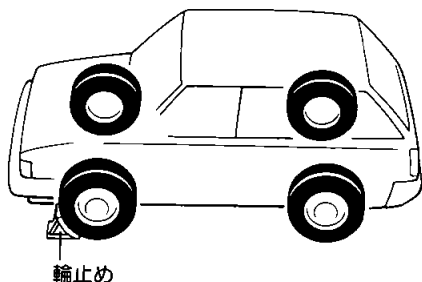
タイヤチェーン

- タイヤチェーンは後輪に取りつけます。
- 作業をするとき車体端部などでけがをしないように注意してください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- タイヤチェーンの取り付け、取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取扱書に従ってください。

■標準的なタイヤチェーン(スチールチェーン)の取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
 2. パーキング(駐車)ブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。
- 
3. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はPの位置にします。
 4. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
 5. 工具やジャッキを取り出します。□94ページの「パンクしたときは—②タイヤ交換」を参照してください。

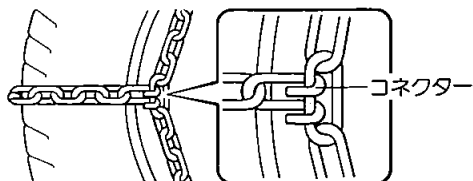
6. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め（搭載工具に含まれています）をします。



7. 後輪をジャッキアップします。

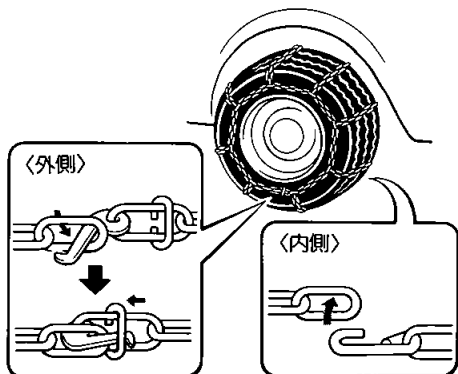
□91ページの「ジャッキのかけ方」を参照してください。

8. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。



9. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックから先に連結します。

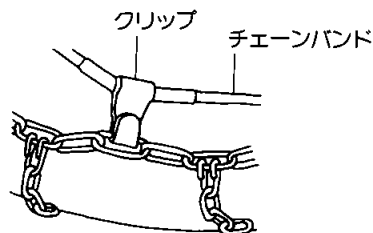
- チェーンが内側、外側のどちらか一方に片寄っていないか確かめ、外側のチェーンもいっばいに引っ張り連結します。



10. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。



11. チェーンバンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



12. 車体をおろし、輪止めをはずします。

13. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。

⚠ 注意

タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。

👉 アドバイス

- タイヤチェーン（スチールチェーン）を装着しているときは、30km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- ホイールキャップ付き車の場合、ホイールキャップをはずしてから、タイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷をつけるおそれがあります。

■ 取りはずし方

1. チェーンバンドをはずし、針金を取り、フックは外側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。